

網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.69
2016.11

ちょっと休憩中…

森のかくれんぼ

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

冬の訪れを知らせる“クロテンフユシャク”

11月のある日、一面雪に覆われた静かな森の中で枯葉のすき間におさまりよく休んでいたクロテンフユシャクに出会いました。遠くからは色の抜けた枯葉のようでしたが近くでじっくり見てみると何とも小さなガでした。晩秋の頃になるとヒラヒラと儚げに飛ぶ“フユシャク”の仲間を多く目にしますが、このクロテンフユシャクもその一員で寒い季節になると出現し始めます。「どうしてまたこんな寒い時期に？」と不思議でなりませんが、メスの翅は退化している種類も多く、オスはお世辞にも飛翔力が優れているとは言えないところを見ると「外敵の少ないこの時期に活動するのが得策さ」とでも言っているかのようです。寒い時期に小さな体で飛び回りパートナーを見つける…。決して華やかな存在ではありませんが、見た目とは真逆の力強さを感じた出会いでした。

What is
“Kurotenfuyushaku”?

「黒い点のあるフユシャク」

シャクガ科

開帳：22～31mm（オス）

分布：北海道～九州

晩秋から早春にかけて見られる普通種。黒い点と2本の黒い線が特徴的だが、よく似た種もある。メスは飛べないが歩行に向く丈夫な脚を持つ。別種のメスのフェロモンを嫌う。



(オミスジフユナミシャク♀)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



網張から見える 山ノート

3ページ目 高倉山・小高倉山

高倉山・小高倉山
 標高：1408.7m・1235m
 位置（網張 VC から）：西南
 登山適期：登山道がないため特になし
 特色：高倉山は雪石スキー場として広く親しまれている。1993年のアルペンスキー世界選手権開催に伴い小高倉山にも滑降コースが作られたが、現在は利用されていない。両山ともに国立公園のエリア外。

網張ビジターセンターは標高約760mの地点にあり、テラスからの眺めもなかなか見応えがあります。そこから一番近くに見える山が高倉山と小高倉山です。高倉山にスキー場開発の計画が進む昭和45年以降のお話を、雪石町在住の広瀬さんと岡森さんに伺う事ができました。当時は高倉山から三角山～千沼ヶ原と経由する登山道が設けられていたそうです。昭和55年にスキー場がオープンし、玄武温泉方面から伸びる雪石（第一）ゴンドラが運行されるようになってからは、高倉山山頂まで多くの登山者が訪れた事もあったそうです。しかし、高倉山から三角山に至る登山道が厳しかった事やゴンドラを動かすコスト等の諸事情で、定着にはいたらなかったようです。コース上に当時の標識もそのまま残されているが、おそらく熊の仕業でポロポロになっているだろうと、お二人は懐かしそうに目を細めました。

高倉山のロープウェー

山頂が色づき始めた10月の半ば、雪石スキー場が運営する「早朝紅葉ロープウェー」の取材に行ってきました。出発時は霧深かったのですが、上に登るにしたがって好天に。



朝日が木々を照らし、雲海の中から岩手山が顔をのぞかせていました。動き出して7分程で、標高730mにある駅に到着！スギと広葉樹の林に囲まれた、広い芝生のエリアを散策しました。

西方向に、高倉山の山頂方面をはっきり確認する事ができましたが、小高倉山は木々の影となり残念ながら見られず。20分程滞在し、下に戻ると霧はすっかり晴れていました。

ちなみに山頂は右側ではなく左のピーク



Amihari Birds

アミハリ・バーズ Vol. 1 2

ほとんど葉が落ちた森で5～6羽のエナガのグループに出会いました。警戒心はそれほど強くなく、細い枝先では逆さにぶら下がり昆虫の卵をついばむ様子を観察する事ができました。

エナガの巣は、木の枝分かれした所に苔やガの繭などを用いて壺型に整えられ、見た目はまるで虫こぶのような外観です。中には拾い集めた鳥の羽や動物の毛などが敷き詰められ、ふわふわで温かそうです。

エナガはとても仲間を大事にする鳥で、繁殖期に子どものないペアは子育て中のペアの所にヘルパーとして応援に来ることがあるといいます。冬場にはシジュウカラなどのカラ類やコゲラなどと混群を作ることもあり、見た目通り柔和な鳥のようです。

エナガ

科名:エナガ科
 全長:約13.5cm
 生態:留鳥
 分布:日本全国

鳴き声

ジュリリ、ジュリリ
 チ、チ、チー
 チッ、ツリリリリ



国立公園指定運動を最後まで牽引し続けた二人



「それは、国立公園の観光地化が進んだとでもいったらよかろうか。できるだけ便利にして、コレデモカと観光宣伝をかき立てる。その結果、所によっては過密利用を招き、山は荒れ、山は傷む・・・」

利用客が急増した八幡沼一帯で美化活動が始まったころの瀬川氏の述懐。-「折り返しの記」瀬川経郎著より-

今では手軽な登山コースとなっている犬倉山と黒倉山を結ぶ登山道を開いた時の記録 -「山男達が歩いてきた道」長澤新一著より-
 「雨は容赦なく叩きつける。風は強く手はこごえる。全員びしょぬれとなり、ただもくもくと働く。誰からも頼まれたわけでもない。一銭の援助も受けたわけでもない。この優れた山岳コースを、われわれの手で伐開し、より多くの人たちに紹介して郷土の発展を期そう!・・・」



当時、八幡平が国立公園に指定されるために乗り越えなければならぬ二つの大きな壁がありました。一つは「この地域が日本を代表するに足る傑出した自然の風景地であること」を証明する科学的な調査報告があること。もう一つは、一般の人が利用できる登山道が整備されていることです。調査報告を受け持ったのは盛岡中学校の現職教員から急遽、岩手県にスカウトされて以降、自然公園の充実に尽力した故瀬川経郎さん。彼の執筆した「国立公園候補地八幡平の概要」は八幡平の地質、生物、温泉、登山などあらゆる分野を網羅しており公園指定の際に大きな力となりました。今、読んででもその精緻な内容に驚かされます。一方、宗教登山を除くとマタギや炭焼きしか入っていなかった山域に、近代アルピニズムの利用を目指して網張から裏岩手、烏帽子岳、千沼ヶ原方面に縦走路と避難小屋を建設するリーダー役を務めた裏岩手山岳会の故長澤新一さん。

自家用車、チェーンソー、刈払機、インターネット、携帯電話も無かった時代の苦労を想像することすら困難な時代に私たちは生きています。それと同時に、国立公園指定を夢見て奔走した人たちの熱い思いを知る機会も次第に失われようとしています。



PR 寒い日は暖かいモモンガ文庫でゆっくり読書もいいね・・・

網張ビジターセンター展示コーナーには寄贈された山や自然に関する本を集めた「モモンガ文庫」があります。誰でも自由に閲覧できます。上のコーナーで紹介した瀬川さんや長澤さんの著作もありますよ。温泉に入った後、ペレットストーブにあたりながら、のんびり読書を楽しんでみませんか。

環境省盛岡自然保護官事務所

アクティブレンジャー^{のりえ} 紀恵の公園駆け歩記^{こうえんかけあるき}

みなさんこんにちは。盛岡自然保護官事務所の工藤紀恵です。木々の落葉が進みすっかり冬のたたずまいですね。昨年千葉県から盛岡へIターンしてきたわたしには、盛岡の寒さが本当にこたえます。仙台出身とはいえ十数年間関東で過ごしましたので、身体が関東の冬に慣れてしまいました。ここは重ね着で暖かく過ごしたいものの、モコモコに着ぶくれしたアクティブレンジャーというのは全く絵にならないですから、適度な厚着でアクティブ感を出していこうと思っています。

みなさんはウォームピズをご存じですか?冬の過剰な暖房を抑制し、室温20℃(行政は19℃とされています)でも快適に過ごせるライフスタイルを目指そうという取り組みです。暖房に必要なエネルギー使用量を削減することによってCO₂の発生を削減し地球温暖化を防止することが目的です。子供の頃から比べると雪の量が減った、つららが細くなったと感じている方も多いのではないのでしょうか。地球温暖化は日々の生活でも実感できるほど進んでしまっています。



寒がりさんや、冷え性さんでも衣類を工夫することによって暖かく過ごすことが可能です。特に登山用の衣料はとて暖かく機能的かつ軽量でわたくしも積極的に着用しています。

お洗濯をしてもすぐに乾くという点も主婦にとっては大変助かりますね。

また新たな取り組みとして「ウォームシェア」が広がりがつあります。あちこちのお部屋で暖房をつけずに、みんなで同じ部屋に集まって過ごせばエネルギーの削減、さらに家族のコミュニケーションが深まり一石二鳥。我が家の愛猫「助六」も寒くなると膝の上からどいてくれません。嬉しいやら、重たいやら。みなさんも頑張りすぎて風邪をひかない程度に、楽しみながらウォームピズ・ウォームシェアを実践してみたいはかがでしょうか。

白銀の国立公園でお会いしましょう!

V C 行事 報告

10月16日 「秋の網張高原ハイキング」



♥今年の網張の紅葉は、いつもの年よりゆっくりです。気温は8度、澄み切った秋の大気の中、小さなお子さん連れの家族やご夫婦など23名の参加者に、共催の地元パソソンのオーナー、パークライフ、環境省アクトビザがスタッフとして加わりました。かつては炭を運ぶ馬や人の往来で賑わった旧網張街道をのんびり歩いて秋の彩りを楽しんだ後、網張高原温泉郷運営協議会から無料の温泉入浴とコヒ-券が提供され、参加者は大満足の日でした。

11月6日 -クラフト教室-「世界に一つ、手作りミニぼうきに挑戦」



♥昨年に引き続き10名の定員を超えて15名の参加をいただき、講師の階さんご夫妻の丁寧なご指導のもとぼうき作りに取り組みました。ぼうきの軸の部分の編み込みに手こずることもありましたが、形ができてくる頃には皆さんが職人のような手さばきになっていました。作りたてのぼうきを使って後片付けも手伝っていただきました。

◆盛岡森林管理署とのコラボ企画◆

楽しかったね！ 9/28(1・2年生) 10/25(5年生)

地元、滝沢市立一本木小学校の森林教室

しんりんがくしゅうでーばんすこかったのは、くまのつめがすこかったです。あとのはきのこがいっぱいありました。どくきのこもありました。かぶとはいなかったけどもりのなかは、たのしかったです。 -ねん 久保つばき

この時期は、屋内でのミニクラフトが大人気です！

網張の森で見つけた自然物が材料。子どもの付き添いで来たお母さん、お父さんが夢中になってしまいます。寒い季節は創造力を伸ばす絶好のシーズンですね♪

これからの網張ビジターセンター活動プログラム

12月23日(金)
「冬の網張の森を歩く」9:30~

1月21日(土)
「鞍掛山麓アニマルトラッキング」9:30~

◆現在開催中の網張ビジターセンター企画展◆ 11.2-12.28

-鳥撮りとりおの写真展- 「鳥撮りとりお in Amihari」



「鳥撮りとりお」は、盛岡市在住の上川 仁氏、佐藤 仁氏、渡辺 寛志氏の鳥好き三人組が2010年に結成。今回の作品は三人が盛岡市内及び近郊で撮影したもので、早春から厳冬まで、美しい四季の自然をバックに26種の野鳥たちが躍動します。ぜひ、会いに来てください。

「野鳥が幸せに暮らせる環境は人間にとっても幸せです。標本的な写真よりも生き生きとした野鳥の姿をお楽しみ下さい。」-出展者のことばより-

モモンガのつぶやき

晩秋を飛び越えて一面雪に覆われた森の中は時おり吹く風にカサカサ揺れるササの音や樹木のかすかに軋む音が時折聞こえてくるだけです。越冬場所を探す前に雪に降られてしまった昆虫たちは自由に体を動かすことができず、雪の中でただ静かにその一生を終えようとしています。ですがこの季節は“終わり”ではなく、春へ向かう“始まり”の季節でもあるのかも。網張で迎える12回目の冬、どんな出会いがあるのかなあ？(佳)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆9月 2, 652人 ◆10月 2, 891人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆9月 13.8℃ ◆10月 6.1℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉1-2(網張温泉)
TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778
URL <http://amihari17.ec-net.jp>
E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp
開館 冬期(11月から3月末まで) 毎週火曜日休館
9時~17時